

年表で見る清瀬の歴史

「清瀬」という地名が誕生したのは、明治22(1889)年のことでした。清戸の「清」と柳瀬川の「瀬」からとったといわれています。それから「町」「市」へと形を変えながら、清瀬は発展してきました。世の中の出来事と並べて、清瀬の歴史を振り返ってみましょう。



上空から見た府立清瀬病院



給水塔からみた小金井街道(昭和36年)



町内に最初に設置された信号機は、押しボタン式でした(町報「きよせ」昭和41年3月15日号)



昭和45年に発行された市勢要覧



再開発された清瀬駅北口(平成7年)

清瀬の出来事	年	世の中の出来事
神奈川県北多摩郡に清瀬村が誕生	明治22(1889)年	大日本帝国憲法公布 エッフェル塔完成
神奈川県から東京府に移る	明治26(1893)年	世界初の観覧車(機械式)が公開される
清瀬村立昇進尋常小学校(現清瀬小学校)開校	明治31(1898)年	キュリー夫妻がラジウムを発見
武蔵野鉄道(現西武鉄道)秋津駅開設	大正6(1917)年	ロシア革命が起こる
清瀬郵便局開局(無集配局)	大正10(1921)年	アインシュタインがノーベル物理学賞を受賞
武蔵野鉄道清瀬駅開設	大正13(1924)年	昭和天皇(当時は皇太子)ご成婚
東京府立清瀬病院開院(現在の東京病院。所在地は現中央公園)	昭和6(1931)年	満州事変が起こる
村立清瀬中学校開校	昭和22(1947)年	日本国憲法公布
気象通信所(現気象衛星センター)設立	昭和25(1950)年	朝鮮戦争勃発
清瀬町になる	昭和29(1954)年	清瀬で結核療養をした吉行淳之介が芥川賞受賞
清瀬公民館(現清瀬けやきホール)開館 町章(現在の市章)が決まる	昭和36(1961)年	「NHK連続テレビ小説」放送開始 「上を向いて歩こう」が流行
初めての信号機が松山に設置される	昭和41(1966)年	ビートルズが来日
清瀬市になる	昭和45(1970)年	大阪万博開催
市役所新庁舎(現在の庁舎)完成 清瀬市史(現在の市史)刊行	昭和48(1973)年	オイルショックが起こる
中央図書館開館	昭和49(1974)年	東京でモナ・リザ展開催 長嶋茂雄が引退
市制10周年 第1回市民まつり開催	昭和55(1980)年	イラン・イラク戦争勃発 竹の子族の最盛期
郷土博物館開館	昭和60(1985)年	日航ジャンボ機が墜落 「新人類」が流行語に
清瀬10景が決定する	平成元(1989)年	消費税(3%)スタート
キヨセケヤキロードギャラリー完成	平成2(1990)年	東西ドイツ統一
清瀬駅北口再開発事業完成	平成7(1995)年	阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件
「きよバス」が運行開始	平成19(2007)年	第1回東京マラソン開催
市史編さん室設置	平成26(2014)年	ソチオリンピック・ サッカーW杯ブラジル大会開催

新しい清瀬市史編さんへの思い

これから先、何十年も読み継がれていく、新しい清瀬市史。清瀬の歴史を紡いでいく市史編さん委員の皆さんに、清瀬市史編さんにあたっての意気込みをお伺いしました。

千葉・埼玉・東京でいくつかの自治体史編さんにかかわってきましたが、この度住んでいる清瀬の歴史の編さんに携わることになり、緊張を感じています。

史料を掘り起こしながら、市域の先人たちを主人公にして、どのように現在の清瀬が作り上げられたのかを、市民の方々と一緒にひもといていきたいと考えています。



市史編さん委員
根岸茂夫氏

自然の人々の営みもこの大地の上に成り立っています。清瀬の多様な豊かな自然の起源と変遷をひもときながら、そのなかで暮らしてきた人々が紡ぎだした歴史や文化を一層つまびらかにしたいです。そこに清瀬の特質を見いだすことのできる貴重な資料となることを期待し、誰もが気軽に読める市史となることを願っています。



市史編さん副委員長
栗山究氏

◆委員の皆さんから

- *市民の皆さんからの資料提供・情報をいただき刊行していく市民参加型の「清瀬市史」を期待する。
- *近郊の市町村との関わりなどがより深く解明されることを楽しみにしている。
- *歴史を考える材料である古文書に、少しでも親しみを感じてもらえるような市史にしたい。
- *学問的水準と使いやすさの両立を目指す。
- *郷土にコンパスの軸をしっかり据えて歴史を考え、清瀬の地域史を作りあげたい。
- *特に近代に力点を置き、真実の証

- 言として自らも学びたい。
- *語りつがれて伝えられてきた昔の記憶が失われつつある。吟味して記録に残し、後世に伝えなくては。
- *現在の清瀬市史の内容を再検討し、清瀬の文化、教育などに役立つ市民に読まれる市史を期待。
- *郷土史は大切なもの。長く地域で生活した経験、そこで知り得たことなどを活かしてお役に立てれば。
- *専門知識や、他市の市史編さんにかかわった経験を活かしたい。
- *子どもたちに清瀬を大好きになってほしい。そのために親の世代が清瀬のことをよく知らなければ。